

## 令和6年香美市議会定例会12月定例会議 市長提案説明

本日、議員の皆さまのご出席をいただき、令和6年香美市議会定例会12月定例会議が開かれますことに、厚く御礼申し上げます。

議案の説明に先立ち、最近の香美市の取り組みを例に挙げながら、私の政治姿勢や市政運営についての考え方をご説明させていただきます。

まず旧物部村から南米パラグアイに移住されたお2人が、市長室を訪問くださいましたので、ご報告させていただきます。

1人目は、昭和42年にパラグアイのイグアスに移住された公文義雄さん。先月9日にお越しくださいました。お父様は、物部村村長を3期務められ、村を挙げての南米移住を計画された公文包治（かねじ）さんです。公文義雄さんは、毎年のように物部町のご実家に帰られており、パラグアイ国アルトパラナ県イグアス地区と香美市を行き来されております。

2人目は、中古味寛さん。昭和35年ご家族と13才の時に、パラグアイのピラポに移住されました。現在のパラグアイ国イタプア県ピラポ地区にお住まいです。

中古味さんは、20年ぶりの帰郷とのことで、今月13日に市長室にお立ち寄りくださいました。そして、今年の春の叙勲で、旭日単光章をご受章されてもおります。

さてお2人とは、私が県議会議員として平成28年「パラグアイ日本人移住80周年式典」に参加した時に、パラグアイにてお会いさせていただきました。

遠く日本を離れ、気候も文化も、高知とは大きく異なる土地で、電気も水もないという想像を絶する環境の中、原始林を斧やノコギリを使い、人の力だけで切り開き、井戸を掘り、家を建て、農地を生み出していきました。

またパラグアイの日本人移住地には日本語学校があるのですが、中古味さんは無報酬ながら、長らく日本語学校の教師として教鞭を執られました。

最近では、高知ファイティングドックスが、パラグアイの少年野球指導のため訪問しておりますが、現地で土佐弁が使われていることに皆さん驚かれます。このように日本語学校のレベルは非常に高く、移住3世でも、流暢な日本語を話されます。

物部村出身の方を含む、土佐人移住者の底知れぬパワーと、日系社会での存在感を感じます。

私は、古き良き物部町の伝統が、遠く南米の地に受け継がれていることに感動するとともに、本家物部町は、人口減少が続く現状ではありますが、原始林を切り拓いて町を作った物部村出身移住者のパワーに見習い、頑張らなければと改めて決意したところです。

お 2 人のふるさと香美市へのお気持ちを、多くの方に知って頂くべく、この場でご紹介させて頂きました。

次に、教育長の不在問題についてです。

教育長の選任につきましては、香美市の教育委員 4 名の合意を得てからの議会提案という慣例に従い、ご了承を得るべくご説明を続けております。

これまで議長・副議長に進行をお願いして、11 月 25 日に 7 回目の会議を開催しております。現状は、第 1 回目の会議で合意できた「第 2 期教育振興基本計画を進められる方」という共通認識に基づき、ご説明を続けていますが、まだ具体的な人選の合意までには至っておりません。

私としましては、教育委員会が掲げる学園都市構想が、どういったものを明確にして頂き、私が考えている構想と、何が同じで何が違うのかを明確にする必要があると思っております。

また 9 月議会以降で、山田小学校 PTA 会長、鏡野中学校 PTA 会長、小中学校長で組織された校長会の皆さまと、意見交換をさせて頂きました。

私からは、第 2 期教育振興基本計画を高いレベルで実現させるためには、PTA の皆様や、香美市民のご協力が不可欠と考えており、私と教育委員 4 人だけで協議するのではなく、PTA の皆様にも議論に加わっていただきたいと考えている旨、お答えしました。

例えば、市民向けの説明会として、まず私が考えている構想を発表し、次に教育委員から学園都市構想を発表して頂き、ご参加の市民からご質問を受ける形で、共通したイメージを導き出せないかと考えております。

私としましては、引き続きご説明を続け、教育委員の皆様から早期の合意が得られるよう、努力してまいります。

次に、「5つの基本政策と4つの横断的な政策に基づく香美市づくり」についてです。

最初に、基本政策の1つ目、経済の活性化についてであります。

香美市にとりまして、来年春からのNHKの連続テレビ小説「あんぱん」は、観光振興による経済活性化にとって、大きなチャンスであると考えております。

そこで、香美市に来られたお客様にご満足頂き、リピーターとなって頂くべく集落活動センター美良布の施設内に臨時観光案内所を設置いたします。

この案内所は、香美市観光協会に運営を委託する予定です。お客様が欲しい情報を的確に伝え、更に香美市の見どころもお伝えできるよう、取り組んでまいります。

次に、香美市におけるアニメツーリズムについてです。

アニメツーリズムとは、アニメや漫画作品の舞台となった土地や建物などを訪れる旅行のことを指し、香美市においては、アンパンマンミュージアムへの誘客につながる新たな切り口と捉えています。

そこで11月9日10日と東京池袋で開催されたアニメ&まんが聖地EXPOに、香美市とアンパンマンミュージアムでブース出展させていただきました。

当日は、アニメイトガールズフェスティバルという2日間で15万人集めたイベントと同時開催という事で、香美市ブースにも多くのお客様にお越し頂きました。

また、ときわ荘で売り出している地元豊島区をはじめ、手塚治虫さんの宝塚市、水木しげるさんの境港市、藤子不二雄Aさんの氷見市など、全国の自治体との交流も深めました。

アニメツーリズムでは、日本人だけでなく外国人観光客もターゲットにしており、香美市としましても、NHKの連続テレビ小説「あんぱん」が放映される予定の台湾など、外国人観光客の誘致につきましても取り組んでまいります。

次に、農業の振興についてです。

本議会では、園芸用ハウス等リノベーション事業に、94万9千円の補正予算を計上させて頂いております。この事業は、ハウス内部設備の省力化や高度化につながる環境制御装置や資材の導入に対し補助するものですが、想定以上の要望がありましたので、補正させていただきます。

今後とも、チャレンジする農業者を応援し、香美市の農業を守っていくべく取り組んでまいります。

次に基本政策2つ目の健康長寿の香美市づくりです。

昨年に引き続き、働き盛り世代に、運動習慣をつけてもらうべく「わくわくワークアウトチャレンジ」が10月8日からスタートしております。

香美市の特徴としましては、ご自分の意思で、レベルにあったコースを選び、達成できたならば、セレネの利用券及びカミカポイントがプレゼントされるというものです。

現在実施中のため、最終的な実績はまだお示しできませんが、昨年よりも多くの市民にご参加いただいております。

市民一人ひとりが生涯を通じて、心身ともに健康でいきいきと暮らせる香美市となるよう、取り組んでまいります。

次に基本政策3つ目の教育の充実です。

本議会では、教育委員会の姉妹都市交流事業として、539,000円の補正予算を計上させて頂いております。この予算は、姉妹都市であります積丹町の小学生と、香美市の小学生との交流事業ですが、積丹町側が、同程度の規模の小学校である、大栃小学校との交流事業を望んでおり、今年度は、大栃小学校の4・5・6年生を積丹町に派遣するものです。

大栃小学校の生徒にとって、高知とは気候・風土が違った土地で、見聞きする体験は今後の人生において、かけがえのない財産となることと思います。

また積丹町とは、姉妹都市盟約を結んで、22年になりますが、若い世代に交流を引き継ぎ、今後ともこの交流を発展させて頂きたいと思っております。

次に、基本政策4つ目の市民を守る災害対策についてです。

今年も11月5日に、「香美市自主防災組織みんなで避難訓練」を実施いたしました。例年、日曜日の午前中に開催しておりましたが、今年は平日である火曜日の19時開始としました。

能登半島地震が、お正月に起こったように、地震は、我々の生活とは関係なく、日時を問わず発生いたします。

それぞれの自主防災会の皆さんが、色々な工夫をして実施して頂きましたことは、本当にありがたく嬉しく思っております。

香美市へのご要望もいくつか頂いておりますので、できる限りお応えして、地域の防災力向上に取り組んでまいります。

最後に基本政策5つ目のインフラの充実と有効活用です。

来年のNHKの連続テレビ小説「あんぱん」に向けて、観光客の皆様の増加が予想されますので、国道195号についての整備を、国道195号改良促進期成会の会長として、11月21日に、中央東土木事務所および高知県土木部に要望致しました。この要望活動には、小松香美市議会議長をはじめ、南国市長、南国市議会議長、高知市都市建設部長、高知市議会副議長、そして3市の担当課長にご参加頂きました。

要望内容としましては、道路整備の推進、山田バイパスの早期完成、既存構造物の機能強化と老朽化対策、通学路の安全対策などを含む、予算確保についてです。

ありがたいことに国道195号につきましては、杉田地区の道路冠水対策工事、側溝へ蓋をかぶせる歩道拡幅、木の伐採、またセンターラインの修繕など、今年になって複数箇所を工事頂いております。

今後とも、継続した要望を行い、安心安全な道路整備に努めてまいります。

続いて、4つの横断的な政策についてです。

1つ目は、親しまれ信頼される行政窓口への継続的な改善です。

10月25日に、こうち人づくり広域連合主催の令和6年度トップセミナーが開催され、政策研究共同研修報告を聞かせて頂きました。

県内自治体から6名の職員が研修し、香美市からは建設課の坂田康孝さんが発表をされました。内容は、新規就農者のスタート支援に関する提案で、他の自治体関係者から私の所に「素晴らしい内容だった」とのお褒めの言葉を頂き、市長として誇らしく感じました。

私は、市民からの評価を得られる仕事をするためには、職員の能力開発が不可欠で、職員自らの意欲が重要だと思っています。本人によれば、自身の意思で参加を決め、政策提案という課題に取り組んだとのことでした。

坂田さんには、来年度の予算化を目指してブラッシュアップの検討を提案しております。私としましては、職員の提案については、担当課との協議の上で、効果が高いものは予算化する方針です。

今後とも、職員が能力向上のために学ぶことを応援し、香美市役所のレベルを上げ、市民に親しまれ信頼される市役所となるべく取り組んでまいります。

次に、3月定例会議でご紹介しました、中田浩嗣（ひろつぐ）さんからご寄贈頂いた本庁ロビーの「SANZUI」という石の展示物についてです。

この度、ご遺族の了解を頂きまして、香美市立美術館へ移設させて頂きました。

今後は、ロビースペースをNHKの連続テレビ小説「あんぱん」の機運を盛り上げるコーナーを設ける他、広く市民の活動をご紹介できるようなスペースにしたいと考えております。

香美市民の活躍について紹介する事や、市民による作品展示など、市民の活動を後押ししていくような展示につきまして、検討してまいります。

2つ目は、中山間地域対策の充実・強化です。

本議会では、配食サービス事業につきまして、45万円の補正予算を計上させて頂いております。

この事業は、香美市内に住所を有し、自分で調理ができない方や食事の提供が受けられない65歳以上の単身世帯、高齢者のみの世帯に加え、重度の心身障害者世帯と、重度の心身障害者と高齢者が同居する世帯を対象としたもので、高齢化が進む中でニーズが高まっております。

事業者の皆様には、安否確認を行って頂くとともに、栄養バランスのとれた食事の提供をして頂いており、本当にありがとうございます。

配食を担って頂いている事業者の皆様は、点在する居宅に届けて頂くということで、利益が出にくい中で、頑張っているのだと思っております。

今後も、事業者の皆様には、事業を担って頂けるよう、市としましても情報交換に努め、できる限りの支援と、事業継続をお願いしてまいります。

3つ目は、こども施策の充実と女性活躍の場の拡大です。

7月7日と10月13日に、未就学児を対象とした体験イベントである「あそびのこ」が、龍河洞商店街にて開催されました。香美市提案型市民主役事業補助金を使つての事業です。

主催者であるあそびのこ実行委員会の皆さんにお聞きすると、小学生以上のイベントは色々あるけれど、未就学児向けのイベントは少ないという問題意識から企画したのだそうです。

イベントは、親子で楽しめるワークショップがたくさんあって、例えば、子供達がろうそくを溶かしてキャンドルを作ったり、土佐和紙でミニランタンを作ったりと、子供達の創造性を高めるような楽しいイベントとなっております。

こうしたイベントが香美市で企画されたことを嬉しく思いますし、大人も子どもも楽しめるワークショップや学びが、これからもたくさん生まれるようなまちづくりを目指し、取り組んでまいります。

4つ目は、文化芸術とスポーツの振興です。

本議会では、保健福祉センターのリニューアルということで、2493万9千円の補正予算を計上させて頂いております。

この予算は、NHKの連続テレビ小説「あんぱん」を見据え、エレベーター、音響設備などの機材をリニューアルすると共に、机や椅子なども入れ替えます。

議会の皆様からも、アンパンマンミュージアム周辺での食事に対するご心配を頂いておりますが、保健福祉センターを休憩所や食事場所として開放することにより、一定のニーズを満たしたいと考えております。

また、あんぱん終了後も、保健福祉センターのホールを使ったイベントなどにより、文化芸術の振興や、市民の健康づくりなど、これまで以上に有効活用すべく、取り組んでまいります。

以上、5つの基本政策と4つの横断的な政策についてご説明させて頂きました。